



JPF REPORT vol. 1

MONTHLY NEWS LETTER ABOUT JAPAN POLICY FRONTIER

特定非営利活動法人日本政策フロンティア

Contents

- Introduction 「国家の品格と人間の品格」 小田全宏
- Research Report 「平成の大合併と住民自治のゆくへ」 永尾理恵子
- Research Report 「テラ・ルネッサンス」 鬼丸昌也
- Book Review 「宮中賢所物語」 雀部道子

特定非営利活動法人日本政策フロンティア

〒105-0001 東京都港区虎ノ門三丁目10番5号6F

TEL 03-5777-5809 FAX 03-5777-5819

発行人 小田全宏

編集者 三浦秀之



「国家の品格」と 「人間の品格」

日本政策フロンティア理事長
小田全宏

今、御茶ノ水大学の数学課の教授である藤原正彦先生の「国家の品格」が注目を集めています。ライブドア事件や耐震偽装事件などで日本中が揺れる中、最も日本的なものへの回帰をうたった書物が100万部を超えるベストセラーになることに不思議さを覚えます。

藤原先生はアメリカやヨーロッパに留学する中で、論理を超えた情緒の大切さすばらしさを深く感じていかれます。そして日本の文明の柱にあるのがこの情緒であり、武士道の中に流れる惻隱の情であることに思い至るのです。

私はこれを読んでとても胸のすくような思いがしました。

何でもかんでも市場万能主義で通し、「勝ち組」「負け組」などという言葉が当たり前になり通り社会というのはいかにお金があっても貧しい社会でありましょう。

ちなみに藤原先生のお父さんが、山岳小説家で有名な新田次郎氏です。新田次郎は、「八甲田山死の彷徨」や「芙蓉の人」あるいは「強力伝」などが有名ですが、実はこの新田次郎氏こそあの富士山レーダーを作った藤原寛人氏その人だったのです。昭和30年代日本はあいついで大型台風にみまわれていましたが富士山頂にレーダードームが建設され日本は守られることになったのです。4000メートルを超える高地での作業は筆舌に尽くしがたい厳しいものでしたが9000人に及ぶ人々の情熱により見事に完成しました。

その苦闘の歴史はプロジェクトX第一回で語られていますのでご記憶の方もいると思いますがまさに人間の叡智の結晶であったといえましょう。

戦後日本が混沌の中から国を作りあげていく歴史は、様々な紆余曲折がありながらも感動にみちたものだったと思います。しかし今わたし達は物質的な

豊かさを手にいれながら真の心の豊かさと人としての品格を失ってきているように思います。こういう国としての羅針盤を失った時代こそ一人一人の生き様と品格が問われてくるような気がしてなりません。わたしは今富士山を世界遺産にする運動の旗振り役をしていますが、この運動も日本という国家の品格を考える運動になればという思いで行なっていますし、藤原先生の「国家の品格」今注目を集めていることに対し不思議な因縁を感じています。

最後に最近読んだ本の中で心に残った本を一冊紹介しましょう。かつて漫オブームを作ったB&Bの島田要七さんが書いた「がばいばあちゃん」という本です。これは島田さんが幼少のころ極貧生活を送りながらつきぬけの明るさでいきとおばあさんとの日々のできごとが綴られているのですが、実に面白い本です。わたし達が忘れてしまった心のふれあいと人間としての生き方を思い出させてくれます。是非よんでみてください。

プロフィール

1958年、彦根市生まれ。東京大学法学部卒業後、(財)松下政経塾入塾。松下幸之助翁指導のもと、一貫して人間教育を研究。1991年には、(株)ルネッサンス・ユニバーシティを設立し、以来多くの企業で、“陽転思考”を中心に、人材教育実践活動を行う。1996年には、地球市民会議(NGO)、リンカーンフォーラムを設立し、全国で立候補者による<公開討論会>を実現させ、その回数は800回(2003年12月)に及ぶ。現在当シンクタンク「NPO法人 日本政策フロンティア」理事長を務める傍ら{NPO法人 富士山を世界遺産にする国民会議}運営委員長を務め、また、「全幸会」を主催し、日本人として誇りを取り戻すための「人間学講座」を全国的に展開中。

「平成の大合併と住民自治のゆくへ」

日本政策フロンティア 研究員 永尾理恵子

現在のわが国では地方分権が盛んに叫ばれるとともに、市町村合併が進んでいる。総務省資料によると、平成10年10月1日に3,232あった市町村数は、平成18年4月1日では1,820となりその割合が56.3%となった。47都道府県中で一番合併の進んだ広島県では、その数が26.7%まで減少した。

	市	町	村	計
H10.10.1	670	1,994	568	3,232
H18.4.1	779	844	197	1,820

(総務省資料により作成)

今回の平成の大合併における目的は、地方分権時代にふさわしい基礎的自治体の「行政能力の向上・効率化」や「財政基盤の充実」であったが、一方で合併特例債の「アメ」の効果による駆け足の合併となったという感も否めない。そもそも、「地方自治の本旨」においては「団体自治」と「住民自治」とがあるが、今日の日本で忘れかけられていることが「住民自治」の概念ではないだろうか。「団体自治」とは「地域のことは、地方公共団体が自主的・自立性をもって、自らの判断と責任の下に地域の实情に沿った行政を行っていくこと」であるが、「住民自治」は「住民自らが自らの地域のことを考え、自らの手で治めていくこと」である。合併にしても、「住民自治」を実現する上で、合併

することが本当にふさわしいのかどうかを見極めることが肝心であろう。

「地方自治体にとって肝要なる点は、その一体を成す地域の比較的小なるにある」といったのは、ジャーナリストとして名を馳せた石橋湛山であった。小地域だからこそ、誰でもその政治の可否を判断し関与する機会が多くあるというのである。実際にフランスでは、現在も人口5,000人未満のコミュンが全体の95%を占め、日本の数十倍にあたる約36,500もの市町村（コムニオン）が魅力的な基礎自治体として生き続けている。

要は、大事なものは規模ではなく、その地域の自治を確立する選択肢として合併がふさわしいかどうかである。日本においても、住民自らが選んだもっと多様な自治の姿があってよいのではないだろうか。政府の方針によれば、これからの日本は「小さくて効率的な政府」が進んでいく。その際、これからの地域社会で住民自らが身近なまちの決定により携わっていく「住民自治」の実践が不可欠となるであろう。

【参考文献】

総務省HP <http://www.soumu.go.jp/>

「石橋湛山評論集」（松尾尊兌編／岩波文庫）

「フランスの分権改革」（自治・分権ジャーナリストの会編／日本評論社）

「テラ・ルネッサンス」

日本政策フロンティア 研究員 鬼丸昌也

日本政策フロンティア様よりご支援をいただいている特定非営利活動(NPO)法人テラ・ルネッサンスの鬼丸昌也(おにまるまさや)と申します。小田全宏理事長とは、2003年に私どもの主催イベントで講演していただいたことから、様々なご指導を頂戴することになりました。現在は、本会顧問にご就任くださっています。さて、今回から、私たちの活動や、活動をする中で気づいたことを本誌でご紹介することになりました。初回ですので、私どもの概要をご紹介します。

- ・団体名 特定非営利活動法人テラ・ルネッサンス
- ・理事長 鬼丸昌也(おにまるまさや)
- ・住所 京都市伏見区深草池ノ内町5-23-105

・連絡先 TEL/FAX 075-645-1802/Mail
contact@terra-r.jp/URL <http://www.terra-r.jp>

・設立時期、経緯など

「全ての生命が安心して生活できる社会の実現」を目的に、鬼丸昌也が立命館大学在学中に設立(2001年10月)しました。設立のきっかけは、地雷被害の続くカンボジアの地雷原を訪れ、「自分に何ができるのか」と、問いかけ、「自分には、地雷問題を日本人の人人々に伝えることだったらできる。」と気づいたことです。そこから、地雷や平和をテーマにした講演活動をはじめ、年間100回ほどの講演を現在も行っていきます。

・どういう人たちで構成されているのですか？

事務局スタッフやインターンは20代で構成されています。全国各地で私たちの活動を応援してくれている会員(サポーター)は、年齢、職業ともに様々な方がいらっしゃいます。(日本政策フロンティアで、元子ども兵一名の社会復帰をサポートいただいています。次号で詳しくご紹介いたします。)

・活動内容

設立当初より、カンボジアでの地雷除去支援・義肢装具士の育成、日本国内での平和理解教育などに関わっています。

2003年より小型武器、子ども兵問題にも取り組み、ウガンダ北部での子ども兵の実態調査、小型武器の不法取引規制に関するキャンペーンなどを実施。2005年より、約20年間内戦の続くウガンダ北部での元・子ども兵の自立支援事業を開始。ウガンダの首都カンパラに事務所を開設し日本人スタッフを常駐させています。15名の元子ども兵に職業訓練、基礎

教育、ビジネス教育を実施し、現在、4名の元子ども兵が洋裁店などを開設することができました。同年11月には、子ども兵と小型武器も問題をまとめた『ぼくは13歳 職業、兵士 ～あなたが戦争のある村で生まれたら～』(合同出版)を発売しています。

・今後の活動の抱負など

現在、内戦の続くウガンダ北部にて、日本のNGOで初めて、元子ども兵の社会復帰を促進するための専用施設「SMILE HOUSE」を建設・運営しています。施設を活用しながら、より多くの元子ども兵の社会復帰を支援していきます。

また、子どもが兵士になる大きな理由である小型武器の不法取引を規制するための国際条約「武器貿易条約」の制定に向けて、世界中の約500のNGOと連携し、コントロールアームズ(武器規制)・キャンペーンに全力をあげます。参考:コントロールアームズ・キャンペーン <http://www.controlarms.jp>

BOOK REVIEW

「宮中賢所物語」

高谷朝子 著 ビジネス社

日本政策フロンティア事務局長 雀部道子

皇居の森の奥、鬱蒼と木々が生い茂る敷地の中央に、皇室皇祖の天照大神様の御霊代としての御神鏡を祭っている賢所(正式には「かしこどころ」)、歴代天皇・皇后・皇族の御霊をお祭りしている皇霊殿、皇室御守護の神様としての八百万神を祭っている神殿、この御三殿を宮中三殿という。この宮中三殿を中心とする一帯が、皇居の中で最も清い所とされている。ということは、日本で最も清い所でもある。この賢所に住みこんで仕える独身の女性を内掌典(ないしょうてん)といい、著者は、昭和18年から(20歳)から57年間その内掌典を務めた女性である。表向きの皇室行事とは全く関係なく、ひたすら神様に仕えるために、平安の昔からの変わらないしきたりを守り、御所言葉を使い、厳格な作法や決まり事を継承しているのである。日本の国を護る神様に最も近く仕えているのは女性だったのである。

考えも及ばない、気が遠くなるような決まりごとが本書には満載である。しかし、黙々と、喜びさえ感じて神に仕えているその姿は、なぜか清く、いつしか「清(きよ・清浄なこと)」の世界に引きずりこまれてしまう。【不浄なことは次(つぎ)という】

天皇制反対から女帝賛否両論まで様々に議論されているが、世界に類を見ない万世一系の日本皇

室が、我々の想像を絶する世界観と様式の上に残続されてきたことに脱帽であり、女帝論の賛否を安易に語れなくなってしまった感がある。

彼女達が雑仕(お世話係の女性)達と共に、四季折々の皇居の自然を楽しむくだりは、実に美しく感動的である。

神様に対する深い信仰、天皇陛下や皇后陛下から時おり頂く暖かいお言葉やまなざし、そして美しい自然に取り囲まれ、彼女たちの日々は過ぎてゆく。「さぞや窮屈、退屈な暮しなのではと思うでしょうが、その日々は穏やかでとても得がたい素晴らしい瞬間の連続でございました。密かに厳かに行われてきました賢所の伝統が未来の世に受け継がれていくこと今はただ祈るばかりでございます」高谷さんの言葉である。

現在は、4年間の交代制になったというが、それでは、賢所に流れていた様々なしきたりに心を入れることができるのかと少し不安にもなる。

賢所で行われている行事の中に、僅かではあるが、現代に残っている所もあり、「日本人の品格」について、深く内省させてくれる書でもある。忙しい生活で自分を見失ってしまいそうになった時に、静かにもう一度ゆっくりと読んでみたい。